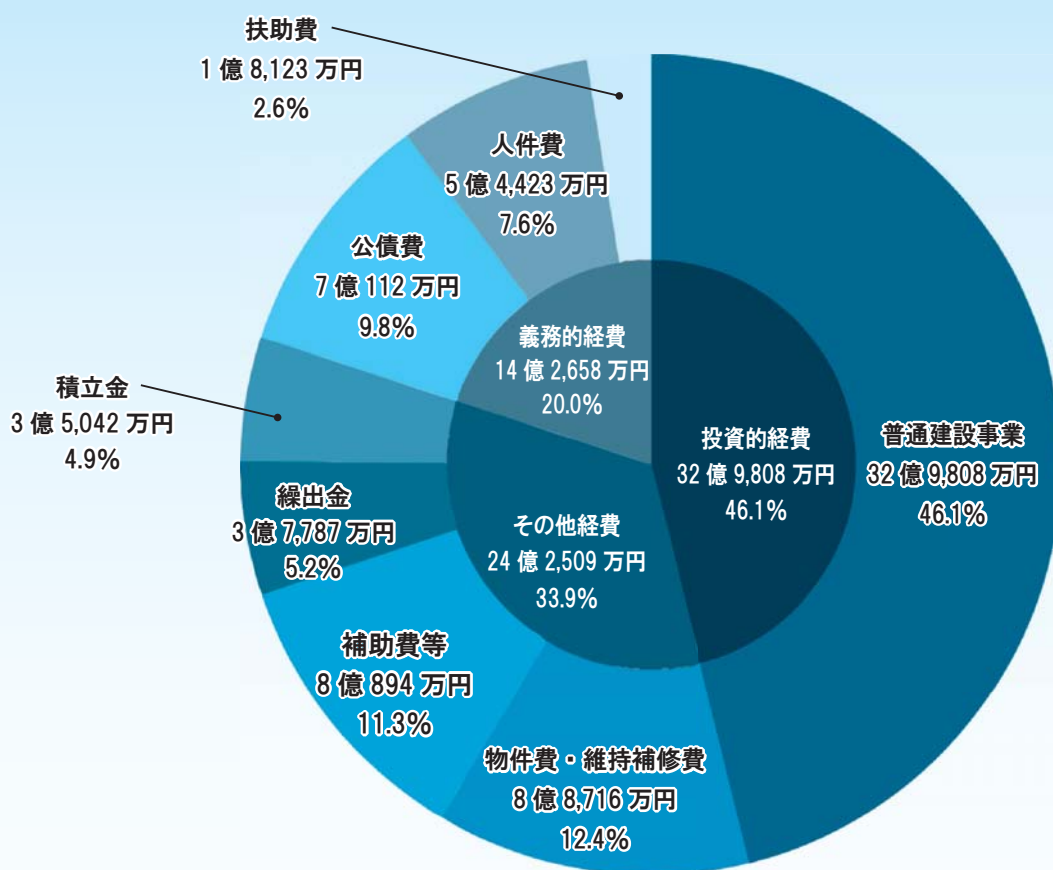


平成27年度の一般会計・特別会計の決算が9月議会において認定されました。決算とは、1年間に、税金や補助金などの収入（歳入）がどのくらいあり、それがどのように使われたのか（歳出）を会計ごとに集計したものです。今回は、その概要についてお知らせいたします。

用語解説

自主財源…町が自主的に収入できる財源。町税や使用料等。 **依存財源**…国や県から交付されるお金や借入金。 **地方交付税**…地方公共団体の財政状況に応じて国から交付されるお金。 **町債**…町の借金。公債費…町債の元利償還金等。 **義務的経費**…支出が義務付けられ任意に削減できない経費。 **投資的経費**…道路、橋りょう、公営住宅等の社会資本の整備等に要する経費。 **扶助費**…法令に基づき支出する各種扶助費用。児童手当、生活扶助等。 **繰出金**…他の会計に支出するお金。



歳出

一般会計歳出 71億4,975万円

歳出合計は、71億4,975万円となり、前年度比21億3,804万円（42.6%）の大幅な増加となりました。

平成27年度は、人件費を除く各費目が増加しました。歳出増加の主な要因は、普通建設事業費32億9,808万円（前年度比18億4,916万円増）の増加によるものです。なかでも学校建設事業は20億8,889万円、ごみ処理施設整備事業は5億3,900万円と大きな事業規模となりました。

普通建設事業費以外では、電算システム改修や施設修繕により物件費・維持補修費（9,608万円増）、また、貯金にあたる積立金（1億5,643万円増）が増加額の大きなものとなりました。

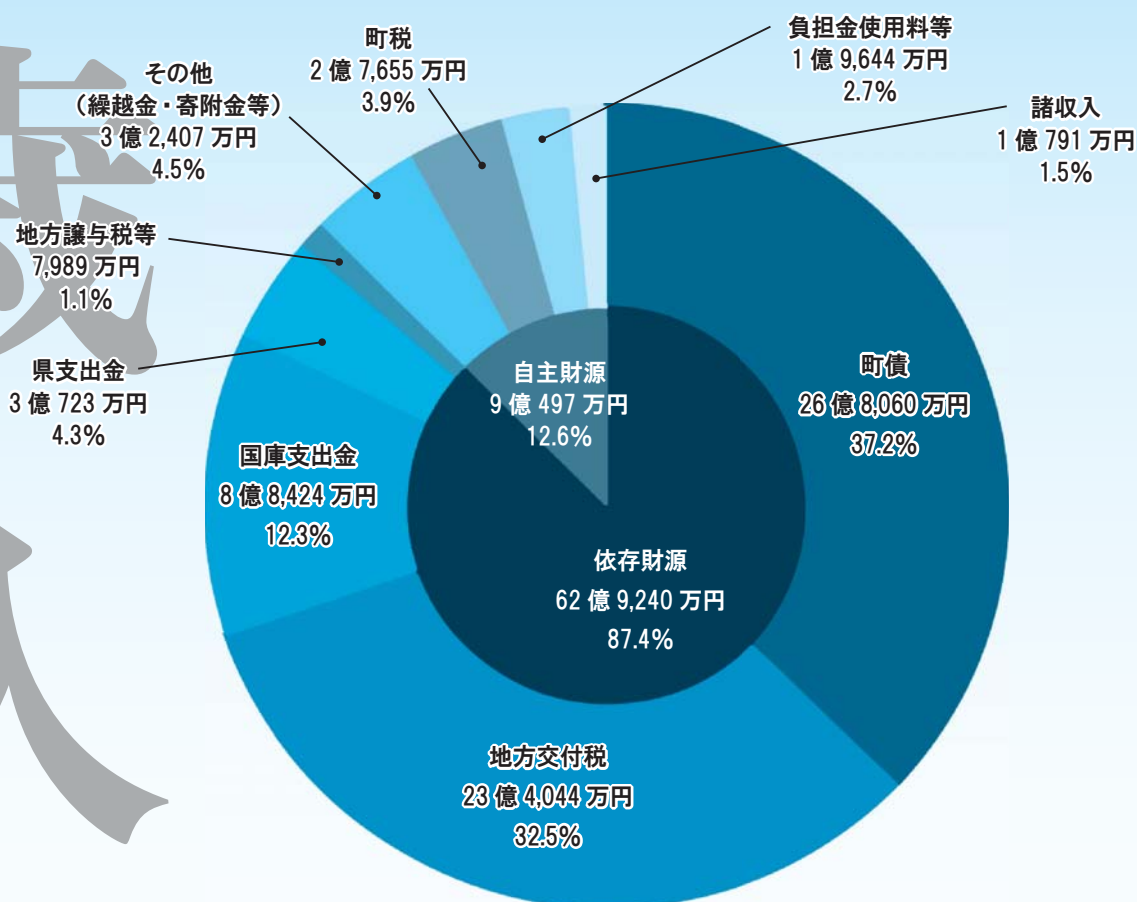


西ノ島小・中学校新校舎

決算報告

一般会計

一般会計の歳入歳出の総額は、歳入 71 億 9,737 万円、歳出 71 億 4,975 万円となり、形式収支は 4,762 万円、翌年度に繰り越すべき財源 9 万円を差し引いた実質収支も 4,753 万円の黒字決算となりました。平成 26 年度に比べ、歳入は 19 億 7,275 万円増、歳出は 21 億 3,804 万円増と歳入歳出ともに大幅に増加しました。主な要因は、学校建設事業やごみ処理施設整備事業などの普通建設事業によるもので、それに伴い財源の町債も大きく増加しました。



一般会計歳入 71 億 9,737 万円

歳入合計は 71 億 9,737 万円となり、前年度比 19 億 7,275 万円 (37.8%) の増となりました。

歳入のうち、町税などの自主財源の合計は、9 億 497 万円で、前年度比 10.4% 増となっています。うち町税は、2 億 7,655 万円で自主財源の 30.6% を占めています。また、ふるさと納税への寄附金は 6,281 万円で、前年度比 4,039 万円 (180.1%) 増と大きく増えました。

地方交付税などの依存財源の合計は 62 億 9,240 万円で、歳入全体の 87.4% を占め、前年度比 18 億 8,715 万円 (42.8%) 増となっています。増加の主な要因は、学校建設やごみ処理施設整備などの普通建設事業に伴う町債の増加によるものです。依存財源のうちで最も大きな割合を占めているのは、町債 26 億 8,060 万円で、次いで地方交付税となっています。普通建設事業に伴い町債が大きく増加となったことが平成 27 年度決算の特徴となっています。